

令和6年度 学校評価アンケート（生徒・保護者・教職員）

このアンケートは、学校の教育目標「人や自然と和し、自分を磨き、夢を結ぶ生徒の育成」の達成状況について、令和6年7月と12月に行いました。

各設問に対して、4＝そう思う、3＝ややそう思う、2＝あまりそう思わない、1＝そう思わない、として回答しています。結果は令和5年度との比較になります。

分類	番号	評価項目	生徒	保護者	教職員
組織運営	1	学校に行くことを楽しみにしている。	3.4→3.4	3.2→3.4	
	2	目標を持って学校生活を送っている。	3.2→3.2	3.2→3.2	
	3	学校の教育目標の具現化に向けて組織的に取り組んでいる。			3.3→3.4
	4	危機管理意識を持って安全・安心な学校づくりに努めている。			3.1→3.6
	5	報告・連絡・相談に心掛け、連携・協力でできている。			3.1→3.3
確かな学力	6	ねらいを明確にし、基礎・基本を大切にしたいと分かる授業に努めている。	3.7→3.6	3.4→3.4	3.4→3.5
	7	生徒が意欲的に取り組む授業づくりをしている。	3.2→3.2	3.1→3.1	3.3→3.4
	8	生徒を公平に評価している。	3.4→3.4	3.4→3.4	3.4→3.5
	9	目標と指導と評価の一体化を目指した授業改善に取り組んでいる。			3.3→3.3
	10	生徒は家庭学習に毎日取り組んでいる。	3.2→2.9	2.8→2.8	3.1→3.1
生徒指導	11	挨拶がよくできている。	3.4→3.2	3.3→3.3	3.1→3.2
	12	教職員は、生徒のことをよく理解していると思っている。	3.2→3.2	3.5→3.5	
	13	生徒や保護者の悩みや願いに適切に対応できている。	3.5→3.5	3.4→3.4	3.3→3.6
	14	いじめ等のない学校づくり・学級づくりに取り組んでいる。	3.4→3.4	3.5→3.5	3.5→3.6
	15	生徒指導に対する教職員の意識統一が図られている。			3.2→3.4
	16	生徒は朝ごはんを毎日食べている。	3.7→3.7	3.8→3.6	
特別活動等	17	校内の環境美化にしっかりと取り組んでいる。	3.6→3.6	3.7→3.7	3.4→3.4
	18	部活動は、生徒にとって充実している。	3.6→3.5	3.7→3.7	3.5→3.5
	19	生徒会活動や委員会活動は、充実している。	3.6→3.6	3.5→3.5	2.9→2.9
	20	運動会や文化祭などの学校行事は、生徒にとって充実している。	3.9→3.9	3.7→3.7	3.7→3.7
	21	主体的に進路を選択する能力や態度の育成に努めている。	2.9→3.0	2.9→3.0	3.2→3.3
	22	人の生き方について考えさせ、豊かな心を育てようとしている。			3.4→3.5
連携	23	学校は家庭への連絡や情報提供を積極的に行っている。	3.2→3.2	3.5→3.5	3.7→3.9
	24	小中学校の連携は、効果的に行われている。			3.2→3.3

1 学校評価アンケートについて

- 「組織運営」について、生徒・保護者・教職員共に肯定的な意見が多かったが、学年間ではつきが見られた。教職員で分析を行い、共通理解の下、全校体制で個に応じた声掛けや支援を実施している。
- 「確かな学力」について、今年度も今治市が導入している通信教育サービスを活用し、「確かな学力」の定着に努めた。3年生を対象とした全国学力学習状況調査の結果を分析し、授業改善に活用している。また、「家庭学習の習慣化」は、本校の最も重要な課題となっている。今後も通信教育サービスやEILSを家庭学習で活用したり、教員が課題を配信したりして、家庭学習の習慣化を図り、基礎的・基本的な知識と技能を身に付けさせたい。
- 「生徒指導」では、管理職を中心に教職員やサポートルームスタッフが一丸となり、不登校傾向等の生徒やその保護者へ個に応じたきめ細かな対応ができた。サポートルームを利用している生徒に対して、学級担任・教科担任と連携を図ることで、授業に参加したり、行事に参加したりすることができるようになった生徒も多い。特に、3年生においては、進路実現に向け、昨年度に比べ欠席日数が大幅に減少するなど、効果が表れている。
- 「特別活動等」では、地域・保護者の協力により、職場体験学習や伝統芸能継承活動、少年

式後の餅つきなどは、充実した活動を行うことができ、肯定的な評価が高くなっている。今後も今治市モデルのふるさとキャリア教育や職場体験学習、福祉体験学習などをさらに充実させ、自分の進路について主体的に考え、実現に向けて行動することのできる生徒の育成に努めたい。

2 主な取組の課題と改善

3年生が「総合的な学習の時間」で行っている伝統芸能継承活動では、指導者の確保と生徒数の減少という課題があるが、獅子舞は地域の保存会から講師を迎え、獅子頭の扱い方や油単のさばき方等を、龍岡万歳は上級生から引き継いだ動画を基に練習して、地域の方には衣装の着付けの仕方を指導してもらっている。また、獅子舞と龍岡万歳を文化祭で披露したり、地域行事でのビデオ上映を行ったりしている。伝統文化継承の一翼を担い、地域の風土や文化を大切にしようという気持ちを高めることができた。今後、生徒数の減少により、一学年での実施が難しくなってくるが、学校運営協議会とも連携を図り、持続可能な取り組み方法を検討していきたい。

夏季休業中に、生徒6名、引率教員1名が、今治西高校、今治工業高校、玉川支所地域教育課、うずしお会と、徳島市にある阿波木偶人形館を訪問し、フィールドワークを行った。参加した生徒は、仕事や住んでいる地域で差別されたことに疑問を持ち、人権を侵害する差別の不当性や誤りに気付き、正しい知識を身に付け、差別解消に向けた意識を高めることができた。また、人権集会で報告会を行い、学校全体で人権感覚の向上に努めた。

不登校や不登校傾向にある生徒への対応が課題であるが、非常勤講師（不登校等対応）やサポートルームスタッフを中心に個に応じた支援を行い、サポートルームが生徒やその保護者にとって安心して登校できる場となっている。利用している多くの生徒に、生活・学習面において、自主的な行動が見られ、開設から2年で一定の成果が見られるようになってきている。今年度も、コミュニケーション力向上のために、外部講師によるソーシャルスキルトレーニングを行い、対話を充実させ、良好な人間関係の構築に取り組むことができた。今後も、様々な機関と連携を図りながら、生徒・保護者の困り感に寄り添うことができる支援を継続していきたい。保護者に対しては、学級担任とサポートルームスタッフが連携して、懇談会や生活の記録、サポートルーム通信などで情報を共有している。